

(2012年3月20日)

香港 花木

第11次全国人民代表大会第5回会議（全人代）は、3月14日閉幕した。

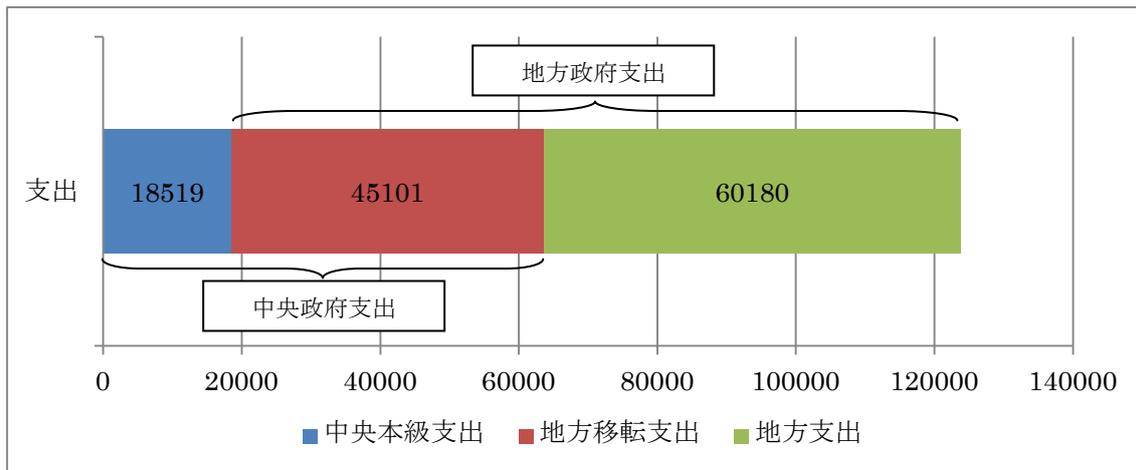
今回の全人代では、

- ・2011年国民経済社会発展計画の実施状況及び2012年国民経済社会発展計画案
- ・2011年中央地方予算執行状況報告及び2012年中央地方予算案
- ・刑事訴訟法修正案一決定。
- ・第12次全人代委員の選任方法の決定。
- ・全人代常務委員会工作報告の決定。
- ・最高人民法院・最高人民検察院工作報告の決定。

が行われた。

なお、このうち**予算案**については前回の報告でご紹介したが、公用車購入代金1000億元という数字は私のまちがいで、約60億元とのことでした。申し訳ありません。

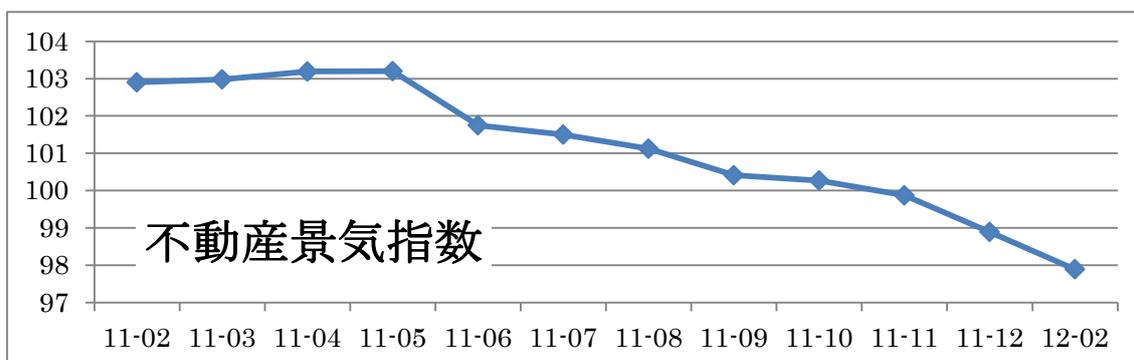
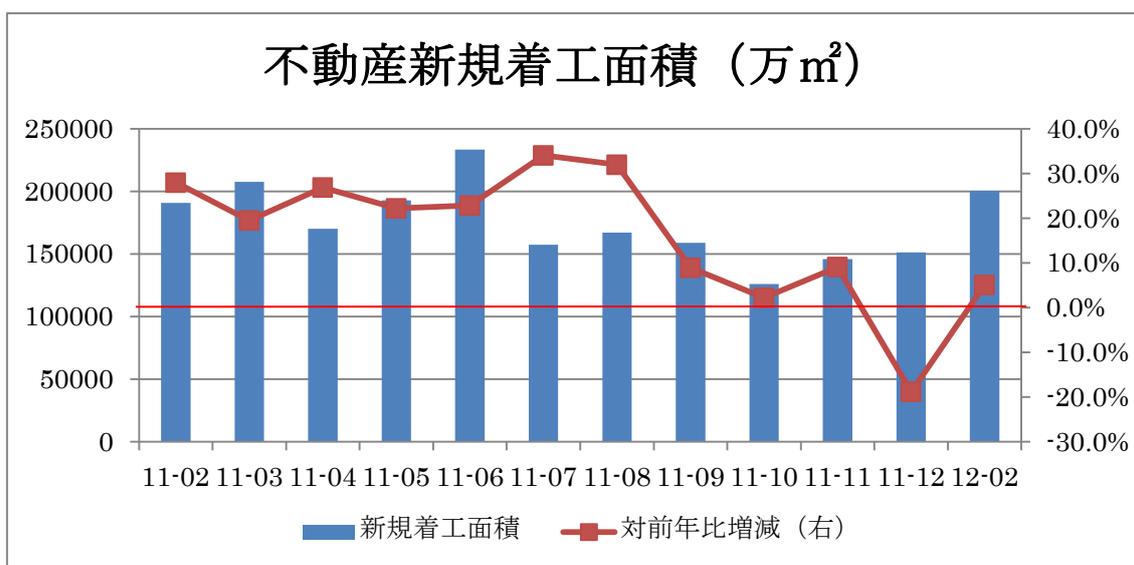
[2012年中国政府予算（億元）]



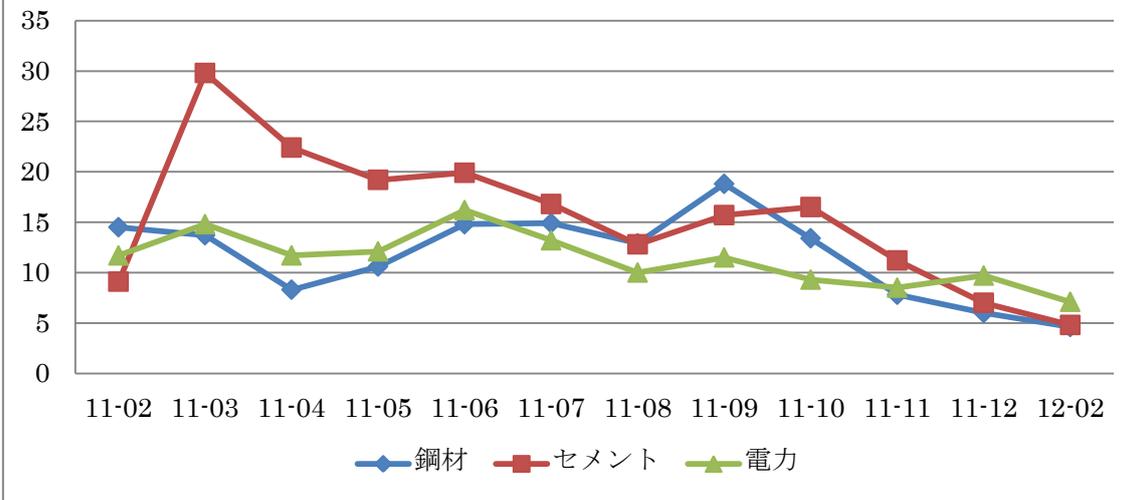
中央政府が自ら行う支出1.8兆元の内訳としては国防費（6500億元）、公共安全費（1000億元）が大きく、その次は行政経費（900億元）となっている。なお、予算報告で謝旭人財務部長は「財政支出の約3分の2は民生関連」としたが、何が民生関連経費であるかははっきりしておらず、教育、医療、就業等だけでなく、地方への一般移転支出（地方交付税に相当）や交通運輸支出等も含んで計算したものと思われる。また、地方政府の支出に充てられる財源としては、自主財源、中央からの移転の他、地方債2500億元（昨年より500億元増）が盛り込まれた。

さて、全人代では今回が最後となる温家宝総理の政府工作報告と記者会見に注目が集まった。政府工作報告では 2012 年の成長率目標の 7.5% への引下げが大きく報道されたのに対して、記者会見では目下の**住宅価格抑制措置**に対するコメントが注目され、大きく報道された。会見において温総理は、「住宅価格は、購買者の収入との関係や、収益率から見て合理的なものであるべきで、それから見れば現在の価格はまだまだ高すぎる」と回答、そろそろ住宅価格抑制策の出口を探るべきだとしてきた関係者の期待を大きく裏切る形になった。

中国のマクロ経済運営は目下非常に微妙な時期にあることは間違いない。PMI 指数としてはゆるやかながら回復しつつあり、特にアメリカの景気が一息ついたことで輸出向け受注指数の上昇が目立っている一方、国内における不動産価格抑制措置の継続により、投資、特に住宅投資の減速（及びこれに伴う鉄鋼、セメント等素材産業の減速）が目立ってきている（下図参照）。消費も信頼感指数は向上しているものの販売額の伸びは減速しつつある。特に、住宅価格抑制策の解除が当面見込まれない中、金融政策（預金準備率の再引き下げ）、財政政策（省エネ環境製品等の購買支援措置）によっていかに堅実な成長を維持できるかが目下の焦点となっている。



主要生産財生産量（対前年比%増）



なお、全人代が終了した翌週 18 日からは、「中国発展ハイレベルフォーラム 2012」が始まり、開幕式には IMF のラガルド専務理事が出席、中国の経済構造転換への取組を称賛するとともに一層の人民元改革を促した。他にも、翌 19 日には、欧米等からやってきた企業家たち 90 名を人民大会堂に招いて温家宝総理が接見し、意見交換を行う等、中国が「世界市場の中心」になっている姿を印象付けた。



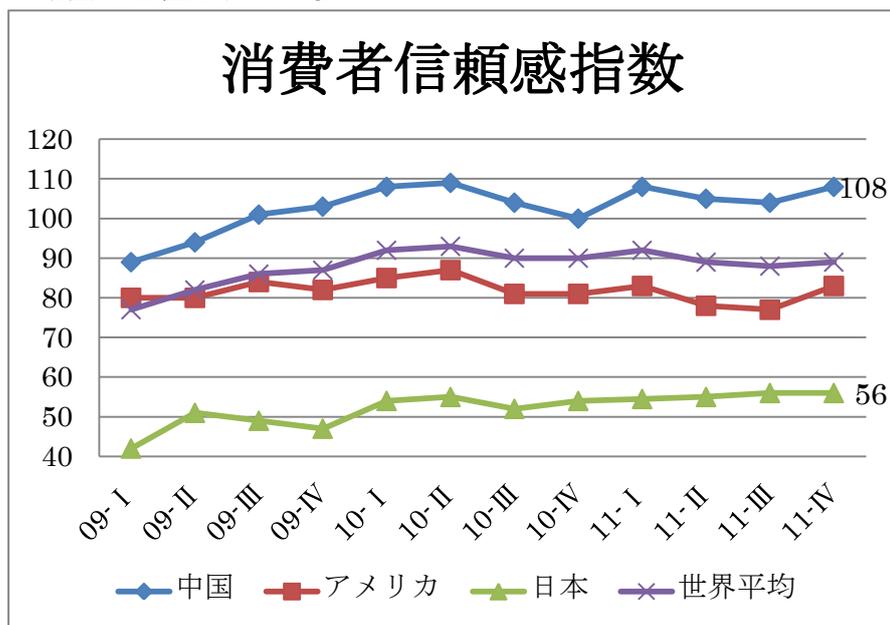
←開会式に出席したラガルド専務（WSJ）



←企業家の陳情に耳を傾ける温総理（共産党新聞）3/19

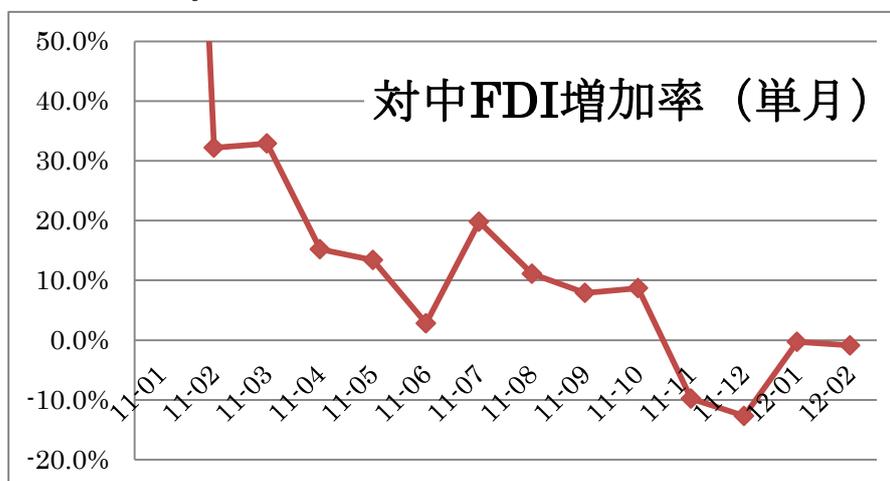
9日、調査会社ニールセンは、2011年第4四半期の消費者信頼感指数を発表。

世界全体の消費者信頼感指数は1ポイント上昇して89となったほか、アメリカ(+6ポイント)、中国(+4ポイント)とも消費者信頼感が回復した一方、EUでは27カ国中デンマーク、ルーマニア及びドイツを除く24カ国で低下、日本は56と絶対値が低く、前期と同じ結果となった。
 ちなみに、全世界で最も信頼感指数が高かったのはインド(122)で、次いでインドネシア、フィリピン(いずれも117)等、アジア諸国が上位を占めた。



15日、商務部は2月の対中直接投資を発表

2月の対中直接投資は対前年同期比0.9%減少し、77.26億ドルにとどまった。対内直接投資はNo.27でお伝えしたように昨年11月から前年割れの水準となっているが、これで4カ月連続となったことになる。



| | <p>対中直接投資減少の主因は EU からの投資が▲33%(9.06 億ドル)と急減したことである。一方、昨年一年間で投資が 49.6%増と急増した日本は 2 月も約 87%増 (5.61 億ドル) と対中投資の増加傾向は依然として続いており、アメリカからの投資も景気の回復を受けて 0.9%増 (5.25 億ドル) とやや復調傾向にあるようだ。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--|----------|----------|----------|-------|----|----|-------|----|----|-------|----|-----|-------|----|----|-------|----|----|-------|----|-----|-------|----|-----|-------|----|-----|-------|----|-----|-------|----|-----|-------|---|-----|-------|---|-----|-------|---|-----|-------|---|-----|
| <p>18 日、国家統計局は 2 月の 70 都市住宅価格を発表。</p> | <p>前月より価格が上昇した都市は済南、貴陽、西寧、包頭の 4 都市となったものの引き続き 45 都市で商品住宅平均価格は下落し、相変わらず住宅価格の下落傾向が続いていることが明らかになった。広東省だけでも住宅在庫が 3155 万㎡ (1 戸 100 ㎡としても 32 万戸相当) と昨年より約 5 割増加しているというし、北京では昨年 2 月に購買制限令が出されたときに約 4400 件あった不動産仲介業者が転業等で約半分にまで減少したと言われているようだ。</p> <div data-bbox="470 862 1356 1534" data-label="Figure"> <h3 style="text-align: center;">70都市の住宅価格（都市数）</h3> <table border="1"> <caption>70都市の住宅価格（都市数）のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>値上がり (%)</th> <th>値下がり (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>11-01</td><td>62</td><td>-2</td></tr> <tr><td>11-02</td><td>55</td><td>-5</td></tr> <tr><td>11-03</td><td>50</td><td>-10</td></tr> <tr><td>11-04</td><td>55</td><td>-5</td></tr> <tr><td>11-05</td><td>50</td><td>-5</td></tr> <tr><td>11-06</td><td>45</td><td>-10</td></tr> <tr><td>11-07</td><td>40</td><td>-15</td></tr> <tr><td>11-08</td><td>25</td><td>-15</td></tr> <tr><td>11-09</td><td>25</td><td>-15</td></tr> <tr><td>11-10</td><td>15</td><td>-35</td></tr> <tr><td>11-11</td><td>5</td><td>-50</td></tr> <tr><td>11-12</td><td>2</td><td>-50</td></tr> <tr><td>12-01</td><td>0</td><td>-45</td></tr> <tr><td>12-02</td><td>4</td><td>-45</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>さて、冒頭にも述べたように、世間の関心はこの住宅価格抑制策がいったいつまで続くのか、いつになったら購入制限措置が緩和されるのかに集まっている。しかしながら、全人代の記者会見において、温家宝総理が現在の住宅価格について「依然として、収入と価格の比率や、賃料利回りを考慮すると、合理的な価格水準にはほど遠い」と指摘し、現在の購入制限措置の継続姿勢を明らかにしたこともあり、目先はむしろ不透明感が増しているようだ。</p> | 年月 | 値上がり (%) | 値下がり (%) | 11-01 | 62 | -2 | 11-02 | 55 | -5 | 11-03 | 50 | -10 | 11-04 | 55 | -5 | 11-05 | 50 | -5 | 11-06 | 45 | -10 | 11-07 | 40 | -15 | 11-08 | 25 | -15 | 11-09 | 25 | -15 | 11-10 | 15 | -35 | 11-11 | 5 | -50 | 11-12 | 2 | -50 | 12-01 | 0 | -45 | 12-02 | 4 | -45 |
| 年月 | 値上がり (%) | 値下がり (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-01 | 62 | -2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-02 | 55 | -5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-03 | 50 | -10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-04 | 55 | -5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-05 | 50 | -5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-06 | 45 | -10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-07 | 40 | -15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-08 | 25 | -15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-09 | 25 | -15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-10 | 15 | -35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-11 | 5 | -50 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11-12 | 2 | -50 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12-01 | 0 | -45 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12-02 | 4 | -45 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

◎瀋陽の商業不動産はバブル状態？

消費性向が高く、また周辺都市を従える「瀋陽経済区」の中心都市として日本企業の注目を集める瀋陽だが、19日経済観察報によれば、瀋陽市を南北に貫く「青年大街」沿いの開発プロジェクト、いわゆる「金廊プロジェクト」はバブル状態であると警告する記事を大きく掲載している。

記事によれば、「金廊プロジェクト」は南北30km、総面積75平方キロの地域に140もの建設プロジェクトがひしめき、総計画床面積は5253万㎡、総投資額は2600億元に及ぶ大規模なものだ。特にその中心を走る「青年大街」沿いには2013年までに200棟以上の高層ビルが立ち並ぶ計画で、現在建設中のものだけでもその床面積は700万㎡と、上海の淮海路、南京路、四川北路の三大商業地域の総床面積の約二倍に及んでいるとする。



←瀋陽「金廊プロジェクト」

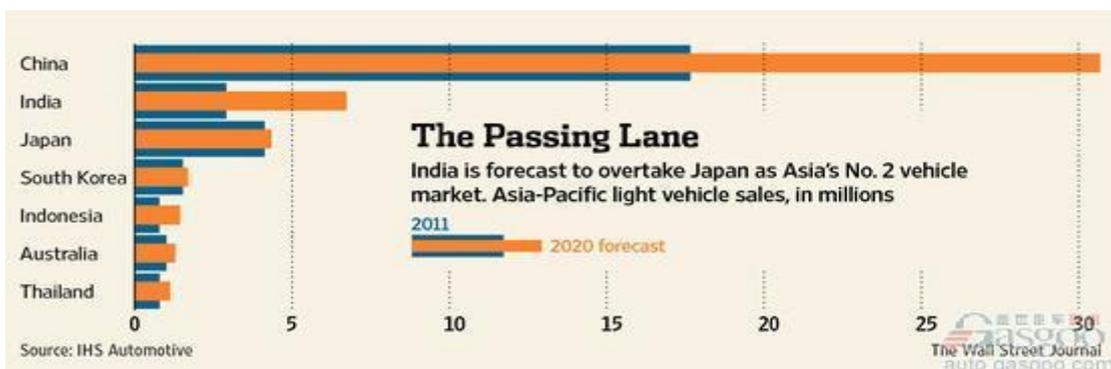
同記事では、成都、昆明についても同様に過剰に早いスピードで商業物件の建設が進んでいると指摘しており、今後、長期的にはよいとしても短期的には警戒が必要だとしている。

◎中国の自動車市場は2020年に3000万台突破？

アメリカコロラド州デンバーに本拠を置く市場調査会社 IHS Automotive は、2020年には中国の自動車販売台数は3000万台を突破すると、今後の市場の急拡大を予測している。

同社によれば、2011年の中国における乗用車及び小型トラックの販売台数は1,766万台だが、2012年には1,921万台とEU全体の市場規模(1,815万台)を追い越し、更に2020年には3,068万台と3,000万台の大台を越えるとしている。

ちなみに、2020年のアジアにおける市場規模は中国に続き第二位はインドとなる見通しで、販売台数の「日印逆転」は4年後の2016年と予測した。

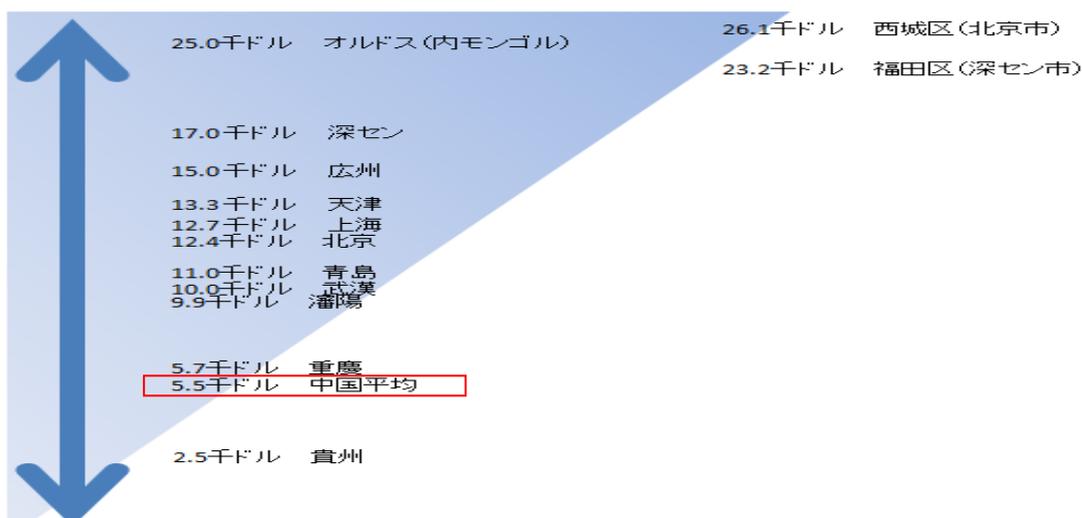


↑ アジア地域の 2020 年における乗用車販売台数見通し。(日印逆転)

◎2011 年の一人当たり GDP ランキング (2011 年)

決して新しいニュースではないが、最近、ある人から聞いて興味を持ったので情報を整理してみた。中国の 2011 年の一人当たり GDP は約 5540 ドルだったが、北京や上海等の都市では 12000 ドルを超えたと報道されていた。

今回、改めて調べてみたところ、直轄市を含む 31 省市の中で一人当たり GDP が最も高かったのは天津市（昨年までは第三位）で、次いで上海、北京、重慶の順であった。ただし、市レベルで言えばオルドス市が相変わらず中国一（香港マカオを除く）であり、大都市ということだと深セン市が高いようだ。また、北京市と一言で言っても四国と同じだけの面積があるので、西城区など都心部だけを見ればオルドス市を上回る数字となっている地域もある。一方、最低の貴州省はわずか 2.5 千ドルにすぎず、しかもこの中にも都市と農村の格差があるため、貴州省の農村と北京の都心の差は 10 倍ではとてもきかないことは間違いないと言える。



(以上)

Disclaimer: 本資料中の数字は注意してチェックしていますが正確さを保証するものではありません。

文章中意見にかかる部分は個人的見解でありいかなる組織の意見でもありません。